

5. 主な活動内容



①講義「対象者理解」



②講義「自然体験活動の技術」



③講義「自然体験活動の特質」



④集合写真

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：84% やや満足：14% やや不満：1% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・理論だけ、また理論を知らずに実践だけと言うのは、実際の場面で人のためにならないと思った。今の段階である程度理解できて良かった。
- ・最初は沢活動に抵抗があったが、仲間と同じ時間を過ごすことで楽しかったり、自然の大切さに気付いたりすることができた。

(3) 成果

- ①4月に大学へ訪問した広報活動（スライドや先輩ボランティアの体験談、具体的な講義内容）が実を結び、定員15名のところ、53名の多くの参加者を獲得する事ができた。
- ②座学と実習を交互に行うことで、理論と実践の学びが深まり、満足度が高い評価を得ることができた。

(4) 課題

- ①対象者理解の講義では当初、発達心理学を専門とする越中准教授（所属：宮城教育大学）に依頼（3月17日）したが、すでに予定が入っていたため松村所長に講義をお願いする事となった。その為、次年度の計画が出来た段階で県内の大学の講師を決定し、早い時期（1月～2月の間）に講師依頼を行う必要がある。
- ②自然体験活動指導者（NEAL）リーダーの活用方法を所内で議論し、次年度以降の教育事業で自然体験活動指導者（NEAL）リーダーが活躍できる仕組みが構築できれば、更により良い事業になると考える。

担当：事業推進係長 佐藤 英樹